

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム 四季の郷

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392500062		
法人名	社会福祉法人ふるさと福祉会		
事業所名	グループホーム 四季の郷		
所在地	〒029-4503 岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根北荒巻21番地19		
自己評価作成日	令和2年9月1日	評価結果市町村受理日	令和2年12月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・季節を感じられる行事を楽しんで頂き、利用者様一人ひとりの個性や生活リズムを大切に、充実した生活を過ごしていただくため、職員が協力して支援に取り組んでいます。又、新型コロナウイルス感染防止に留意し、安心して過ごして頂いています。
 ・日常生活の中で、思いに寄り添いタッチケア、回想法を用いた生活の援助や、精神的なケアを行っています。気の合う利用者様同士の会話があり、和やかな雰囲気が見られます。
 ・個別の外出支援や、手芸品、工作の制作、畑の草取り野菜の苗植え、収穫等利用者様一人ひとりに合った楽しみ方で対応しています。・JAハートフルワーカーズの方々による草取りや、窓拭き等継続した交流を行っています。・広報を発行しグループホームの1日の流れや日常生活を他事業所、家族様、地域の方々伝えてはいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

金ヶ崎町役場から北西部に位置し、県南運転免許センター向かいにある1ユニットのグループホームである。南側には、法人本部、特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、ショートステイ、居宅介護支援事業所があり、法人全体での夏祭りには、入居者が家族と一緒に参加したり、デイサービスと合同での保育園児との交流している。昨年度、全職員で作成した事業所の新理念は日常の介護場面に活かされ、職員の意欲向上にも繋がっている。介護計画は、独自の整理表を活用し、全職員が検討した上で作成されている。コロナ禍で、面会やボランティアの来所、夏祭り等の事業を止むを得ず中止しているが、来月にはJAハートフルワーカーによる畑の草取りと収穫作業、冬期には金ヶ崎高校野球部とその父兄による除雪作業等のボランティア協力が予定されている。運営推進会議委員からは、地元高齢者と入居者の交流事業の提案やミニデイサービス開催の情報が提供され、今後地域との交流活動や事業所PR機会としての場作りが期待出来る。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年9月28日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	愛情を持ちながら支援することを心掛けている。理念を事務所の見やすい場所に掲示している。又、毎月の職員会議で唱和している。	昨年度、職員全員で検討し作成した新理念は、愛情のあるケアを中心に、安らぎ、健康、やる気、ふれ合い、共に過ごすという五つの精神で構成され、職員の意欲向上にも繋がっている。トラブル発生時や対応に困った場合も、利用者支援の根幹に「愛情」を据えることを管理者も職員も心がけ、理念に沿ったケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	JAハートフルワーカーズの方々から草取りや窓拭きを行って頂く等、協力を得ながら交流している。	今春10数名のJAハートフルワーカーズの方々から、畑や花壇の草取り等のお手伝いをし、来月も来所を予定している。体力づくりを兼ねた金ヶ崎高校野球部とその父兄による雪かきボランティアは定例行事となっており、今回は約20名の参加があった。隣接のデイサービスと共催のたんぼ保育園年長児との交流は、今年は残念ながら中止となった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	愛情を持ちながら支援することを心掛けている。理念を事務所の見やすい場所に掲示している。又、毎月の職員会議で唱和している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を书面開催としている。利用者状況や活動について報告し意見聴取を行い、サービスに活かしている。又、大学生のボランティアについての情報を頂いている。	コロナ禍の中で、今年度は書面会議として開催している。隣接の特別養護老人ホームとの合同開催又は事業所のホールでの単独開催としている。出席率向上のため、委員の都合により柔軟に日程を変更して開催している。地域代表の委員からは「ミニデイサービスを開催している」、民生委員からは「地域の高齢者と交流機会を持ちたい」等の情報提供や要望を頂いている。管理者はどうすれば出来ることから着手出来るかと思案している。	運営推進会議委員から提供された要望や貴重な情報を活かせるよう、前向きに検討されることを期待します。また、警察や消防の関係機関との連携構築も出来ることから着手されることが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の職員が運営推進として参加している。ホームの実情を伝え、協力、指導を得ている。生活保護の担当者が訪問した際は利用者の様子を伝えている。	介護保険課職員に運営推進会議の委員を委嘱し、会議に出席して頂いている。入居待機者が一時期減少したことで、入居希望者の情報提供等をお願いした。コロナ禍のため介護相談員の訪問はないが、生活保護のケースワーカーは、来訪のうえ利用者に面接し、職員から生活状況を確認している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 四季の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3か月に1回開催し、身体拘束について確認を行いながら支援している。又、社内研修会を開催している。	研修会は年2回開催され、参加出来ない職員は、後日研修資料に目を通してしている。禁止となる具体的な行為については、事業所内に掲示している。入居直後の不穏や帰宅願望のある利用者には、手を変え、話題を変え、手厚く気持ちに寄り添い、拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては、「語尾をやさしく、声のトーンは低めに、ゆっくりとした口調で」の意識づけを徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について社内研修会を開催している。又、日常の支援について言動に気を配っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護と成年後見制度について社内研修会を開催し、制度の理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約や改定の際は分かりやすく説明し同意を得ている。又、不安や疑問について伺い、ホームでの生活や支援について納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所時に意見や要望を伺い、日常生活に取り入れている。又、利用者が希望を話しやすい雰囲気を作り希望を取り入れている。	コロナ禍で家族の面会が制限されてる中、管理者は、家族の希望、要望等の把握方法の検討について一考の必要性を感じている。家族からは、運営に関する意見は殆どなく、利用者に関しての希望や要望が殆どである。利用者からは、外出先、食べたい物等の希望を確認し活かしている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 四季の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や要望について毎月の経営会議で報告し、運営に反映させている。	経営会議には管理者が出席し、職員の意見・要望を話題にし、今年度備品として、冷蔵庫の購入とホール、廊下のエアコンの購入が認められた。また、規定外の職員研修の受講について、事前相談の上研修を受けさせている。日常的な相談については職員間でスムーズに行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心と責任感を持ち、働きがいのある職場作りに努めており、資格取得制度を整備している。又、制度を活用している職員がいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修計画を作成し、各研修の機会を設けている。職員が向上心を持ちながら、働けるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流を図り情報交換をしながら、サービスの質や意識向上につなげている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者についてより多くの情報を得て日常生活に要望を取り入れている。会話の中から信頼関係を築くことができるよう、思いやりを持ちながら支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や不安な点について十分に話を伺い、理解している。近況を伝えながら、お互いの関係作りに努めている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 四季の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族との話し合いの中から、今必要としている支援を提供できるようにしている。訪問歯科や居宅療養管理指導等のサービスを取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で利用者のADLを把握し、有する能力を発揮して頂けるような声掛けや、お互いに感謝の言葉を掛け合いながら、共に支え合う環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時には最近の様子を伝えている。また、毎月のお手紙でも本人の様子を伝えている。本人や家族の希望により、電話で会話していただく等、家族との絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、外出や、面会が難しい為電話での会話や、ご家族に写真を送る、手紙で近況を報告する等支援の工夫をしている。又、馴染みのあった人や場の話題を提供し話を聞かせて頂いている。	今年のお盆の外出は止むを得ず中止した。普段は3名程の利用者が外出や外泊をしている。夏祭り、敬老会、クリスマス会の年3回の行事には家族も参加し、ひ孫も一緒に連れてくる等、利用者や家族の交流機会ともなっているが、コロナ禍のため、今年は参加を控えていただいている。個別の外出時、自宅付近をドライブすると、見慣れた風景を懐かしみ表情が生き生きとし、会話が弾み思い出話を話してくれる利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりが穏やかに過ごして頂けるよう、性格を把握し、テーブルの席の配置を工夫している。また、利用者同士コミュニケーションがとれるよう職員が架け橋となっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時は、ご家族と連絡を取り合い、様子を伺いに行く等の対応をしている。本人、家族の相談にも応じている。又、逝去された方の葬儀に参列させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話などで一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。アセスメントを行い情報を共有している。困難な方には寄り添いながら意思を推し測っている。	入居前に、管理者と主任が調査した利用者情報は、全職員が確認し、疑問点等を明確にした上で利用者を迎え入れている。居室や入浴介助でマンツーマンの介助時、思いがけない話や本音が出たりすることがあり、朝夕の申し送りや介護記録で職員間の共有を図っている。自分から話したがる利用者には、興味や反応のある話題を提供し、会話を誘導している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、馴染みのあるものを持ち込んで頂いている。又、調査の際は、利用者、家族が話しやすい雰囲気作りを心掛け情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録等で身体状態の変化や、1日の過ごし方、有する力等の現状を把握し共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成前には、アセスメントを行い課題の整理表を活用し、職員会議で支援の関わり方や、方針について意見を出し合っている。本人や家族の思い、要望等計画に取り入れている。	事業所独自で作成した「整理表」を活用し、検討資料としている。職員会議1週間前から、全職員が業務の合間に、利用者や環境の状況、対応方法、解決すべき課題を記入し、職員会議で課題への対応や方針について話し合っている。その内容を介護支援専門員がまとめ、新しい介護計画案を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子についての気づきや実践したこと、結果や工夫を個別記録に記入している。情報を共有し話し合い、支援を見直す等、介護計画に取り入れ実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族が要望や意見を言える雰囲気作りを心掛けている。又、定期的に要望等を伺っており柔軟な対応を行っている。希望に応じ行事等取り入れている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 四季の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館より定期的に配本サービスを受けている。地域ボランティアによる除草作業等協力して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を受けており、健康状態を報告している。体調の変化が見られた際は主治医に報告し、指示を頂いている。救急時や家族が対応困難な際は職員が対応している。	訪問診療は、8名が系列特別養護老人ホームの協力医による2週間に1回の訪問診療を受診し、他の1名は入居前の主治医である町立の国保金ヶ崎診療所の訪問診療を受診している。家族が県外に居住し受診対応が難しい場合には、家族の希望で主治医の変更を行っている。日常の健康管理は常勤の看護師が行っており、緊急時に関しては臨機応変に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康状態を把握し共有している。体調変化の早期発見に努めており、変化がある際は看護師に報告相談し健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は医療機関に情報を提供している。入院中は病院を訪問し、情報交換を行っている。また、家族からの相談に対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化、終末期について説明し同意を得ている。看取り支援の際は計画に基づいて行い、医師や看護師にこまめに報告し指示を頂きながら、各職種が連携して取り組んでいる。職員の精神的サポート、情報共有を行い負担軽減に努めている。	これまで4名の方々の看取りを行った。状況に応じて夜勤職員を2名とする方針としている。終末期に協力医師が朝夕2回の回診を実施していただくことも、職員の支えとなっている。今年7月に対応した事例について、職員の精神的なサポートにも配慮し、看取りの「振り返り」を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えてマニュアルを作成している。普通救命講習会でAED使用について確認し、冷静に行動できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間、昼間を想定した火災避難訓練を実施している。隣接の法人事業所と合同で行っている。	ハザードマップ上水害の心配はなく、訓練は火災を中心に行っている。隣接のデイサービス職員や夜間は特別養護老人ホーム職員の協力が得られる体制にある。管理者は課題として、訓練実施後の反省点の職員全員での共有化、避難手順や方法の見直し、系列職員や地域との協力体制構築等を捉えている。	訓練実施後の反省点を解決しつつ、物品管理や避難路の整備、避難手順等の見直し、地域との協力体制構築を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしさを尊重し、日常の言葉づかいについても馴れ馴れしくならないように心掛けている。	入居前に、管理者と主任が確認した利用者情報を職員が確認し、利用者理解に努めている。普段の呼称は「さん」付けで行い、役職歴等のプライドに配慮した対応を行っている。朝食をパンとコーヒーとしていた利用者には、入居後も自宅と同様の対応としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションから利用者の思いや、気持ちを確認しながら、意思決定できるように声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調を確認しながら洗濯物を干す、たたむ、草取りを一緒に行っている。起床時間や食事時間等、できる限り対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で身だしなみを整えられるように、蒸しタオルやブラシ、髭剃りを手渡したり声掛けを行っている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 四季の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材で季節を感じて頂いたり、希望の献立を伺い食事行事として行っている。食事の後片付けを一緒に行っている。	野菜の皮むき等の準備作業は、夕食にむけ午後に行っている。食後の片付けは一人が行うと、次々とテーブル拭きや食器拭き等に利用者が手をかけている。3食共に職員が同席し、コロナ禍前は会話が弾んでいた。正月やひな祭り、七夕、敬老会等の行事食の他、「回らない寿司」と称し、ホワイトボードにネタを書き、利用者の希望に応じてネタを握る会を企画し、利用者が積極的に声を出したり、普段は食の細い利用者が沢山食べたりしてくれる。調査時は「芋の子汁が食べたい」との利用者の要望を引き出し、昼食に提供していた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた献立を工夫している。食事量、水分量を記録している。ムセ、嚥下状態の悪い方にはお粥や、ミキサー食を提供している。水分摂取量が少ない方にはこまめに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は、声掛けをして自分で行っていたり、できない方は歯ブラシを手渡したり、義歯洗浄を介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録で排泄パターンを把握し、トイレで排泄ができるように、個々に合わせた時間で声掛け誘導を行っている。自尊心を傷つけないよう配慮しながら対応している。	昼夜ともにオムツを利用している利用者はなく、トイレでの排泄支援を目標に支援している。トイレ誘導が必要な利用者への声かけも、耳元で小声で行う等調査時も配慮の様子が伺えた。車椅子利用者の1名が夜間にポータブルトイレを使用している。便秘による不穏予防にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の好みに合わせた飲み物やヨーグルトを提供している。必要に応じて下剤を服用しながら排便をコントロールしている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 四季の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者に声掛けを行い希望やタイミングに合わせて入浴をしている。洗身など、出来ることは行っている。入浴時に体験談など会話をしている。	入浴は、日曜以外の午後に週3回入浴できるように提供している。必ず希望や体調を確認しながら、無理強いせず、仲の良い入居者に誘ってもらい気分良く入浴する配慮や、一番湯や最後の湯の希望等も尊重している。職員が民謡の出だしを唄い、続けて最後まで歌ったする利用者もある。季節にはゆず湯や菖蒲湯も提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅で使用して愛着のある物を置くなど、環境を整えている。安眠できるよう声掛け、傾聴、タッチケアを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を申し送り時に職員間で確認をしている。服薬確認のため声出し二重チェックを行い、体調変化が見られた時は、主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	窓際の談話スペースのソファでコーヒー等を飲みながら気分転換して頂いている。食器拭き、洗濯物たたみ等利用者に合った役割を継続して行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に施設内の畑の手入れや散歩を行っている。ドライブに出かけて、自宅付近や見慣れた風景を見ながら、懐かしんで頂いている。	日常会話の中で、「〇〇に行きたい」等の希望があった場合には、後日個別対応の時間をとって外出している。興味のある話題で誘い出し、施設の周囲を1周したり、外の花壇や畑に誘い屋外に出たり、ウッドデッキを利用し日光浴もしている。利用者全員で出かける場合は、デイサービスのワゴン車を利用している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新聞広告を見ながら食品や物品の値段の話をする事で金銭感覚や能力を保持している。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 四季の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状の作成支援を行っている。家族や友人へ電話をかけたり、取り次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に、のれんを取り付け、利用者が居室に居ても、生活感を感じながら過ごしていただけるようにしている。季節の行事に合わせて共同作品を飾っている。軍足人形を飾り、和やかに過ごしていただいている。	玄関を入り、明るく広いホールは天井が高く開放感があり、食事をするテーブルは3か所に設置されている。壁は白く、利用者が作った季節の創作品が飾られている。スタッフルームやキッチンにいる職員とも会話が出来る。天気の良い日には、ホールから出入り出来るウッドデッキがある。利用者の好む民謡をBGMとして流す時間もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出身地が近い利用者同士、ご夫婦が居心良く過ごせるように、席の配置を考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた家具やテレビ等を持って来ていただき、使いやすいように、本人と相談しながら配置を考えている。	自宅からは、座り慣れた椅子や使用していたテーブルの他、衣装ケースや筆筒を持ち込んでいる利用者もいる。ドアを開けている際のプライバシー確保のため、長めの暖簾を取り付けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内がクッション床になっている。バリアフリーになっており、車椅子自走の際危険防止のために、壁をガードしている。手作りカレンダーを活用し、自立した生活が送れるようにしている。		